平成 15 年度

大分大学
大学教育開発支援センター
報告書

大分大学大学教育開発支援センター

2003

はじめに

大分大学大学教育開発支援センター
センター長　豊田　寛三

平成15年10月，旧大分医科大学と旧大分大学は統合して，新しい大分大学として発足した。また，本年4月からは「国立大学法人 大分大学」として出発する。まさに，組織もろとも高等教育改革の真っ只中にいるといっても過言ではなかろう。そして，今ほど我が国の高等教育の内容・質・成果が問われていることも，かってなかったことである。

大分大学大学教育開発支援センターは，旧大分大学の理念・目標に基づき，本学における教育活動の在り方を総合的に探求し，学内緒組織や学外関係機関と連携しながら，高度で個性的な教育の実現を支援することを目的として，平成13年2月，学内措置によって設置された。統合に際しても，その必要性は十分認識されたし，法人化後は一層重要な意味をもつものとなり，本学における教育改革・改善のための中心的役割をもつ組織・機関と位置付けられよう。

本センターでは，併任の黒川センター次長の下に，各学部から選出された運営委員で構成される運営委員会によって①FD 支援プロジェクト，②メディア教育プロジェクト，③学生による授業評価プロジェクトと④広報委員会が立ち上げられ，職務を果たすこととなっている。次長・運営委員・プロジェクト研究員の先生方は，本務のかたわら少ない人数のなかで精力的な調査・研究・実践が行っていただいている。深甚の謝意を表したい。

本報告書は平成15年度のセンター活動の概要を示すものである。熟読し，本学の教育活動の一層の活性化の資として活用されることを切に要望したい。

本報告書とは別に，支援要請を行った教務協議会から「平成15年度　FD報告書」も刊行されることとなっている。そこでは，研修会・講演会等の開催や全国的な会議等への教員の派遣のほか，3年目を迎えた合宿研修によるワークショップ，授業構成技術等の向上のためのワークショップ（Excel で学ぶ統計処理，WEB を活用した教育・学習環境開発），教養教育授業公開ワークショップ，初年次のゼミナールにおける教育技法のワークショップなどの概要が報告されている。また前年度に実施された授業改善のための「学生による授業評価アンケート調査　報告書」も刊行されている。

センターは，学内措置により設置された組織であり，独自のスタッフを持たず，さらに自らの「活動」ではなく，他の組織等からの「支援要請」に基いて初めて活動できるというシステムにある。しかし，自画自賛するわけではないが，その活動は目をみはるものがある。従来課題であった学生による授業評価結果の活用についても，速報版の発表，教員による自己点検レポートの作成・公表などは，わずかであるかもしれないが「一歩前進」といえよう。

センターが本来の職務を果たすためには，組織上の裏づけが，どうしても必要な時期が到来している。センターのあり方や活動について，学内の多くの方のご意見を期待する。

平成16年3月

目　次

はじめに

Ⅰ　プロジェクト活動

ⅰ．メディア教育プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・　1

ⅱ．ＦＤ支援プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

ⅲ．学生による授業評価プロジェクト・・・・・・・・・・・１５

Ⅱ　広報委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅲ　資料

ⅰ．センター運営委員会議事概要・・・・・・・・・・・・・・２５
ⅱ．センター関係諸規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

大学教育開発支援センター運営委員名簿・・・・・・・・・・・・３１

I　プロジェクト活動

i．メディア教育プロジェクト

メディア教育プロジェクト活動報告

【概要】

〔プロジェクト研究員〕

山下　茂（教育福祉科学部，責任者）
藤井弘也（教育福祉科学部）
井田知也（経済学部）
西村善博（経済学部）
岩本光生（工学部）
二村祥一（工学部）

〈専門領域〉

（地域連携）　岡田　正彦（生涯学習教育研究センター）
（ＶＯＤ）　大岩幸太郎（教育福祉科学部）
（ネットワーク）　吉田　和幸（情報処理センター）

本年度は，大分大学の教育環境が大幅に拡充され，まさにメディア教育という捉え方に相応しい環境といえるようになった。

・新しい語学学習のシステム（CALL System）
・挟間キャンパスとの遠隔講義システム（Digital Video Transport System）
・講義等の記録をVODで活用できるビデオライブラリーシステム（CA System）
・Webをベースとした講義設計・運用が行えるCourse Management System（WebCT）

等の学習支援システムが導入され，授業・学習環境がより充実したものとなり，本格的なe-Learningの運用を目指した活動を行ってきた。

本プロジェクトは，このように整備してきた環境を大学の教育活動の色々な場面で活用して頂けるような開発等の取り組みを実施していくことが任務であろう。

今年度は以下のような計画を予定した。

Ⅰ．メディアの授業等への活用促進

①FDプロジェクトと共催で，本年度より運用可能となったWebCTによる
「Webを活用した教育方法」の研修（中級者向け：後期）を実施

②Webを活用した授業実践の講演会を計画

③VODを利用した学習支援の講習会
授業のビデオ録画を自動的にライブラリー化するシステムの運用に向けて

Ⅱ．遠隔教育

①医科大学との遠隔授業・共同授業の調査研究
DVTSによる授業を一部で実施する。

②他大学との授業の実践
実験用ギガビット回線を利用したDVTSによる集中講義

③学内マルチメディアネットワークの活用

④SCSにおいては大分大学発の授業を検討する。

Ⅲ．地域への貢献

この報告では，Ⅰの①，②を中心に行う。Ⅰ－③，Ⅱ－①②については総合情報処理センターH15年度広報に記載したので参考にして欲しい。Ⅱ－③④，Ⅲについては，本年度は手がけることができなかった。次年度には取り組めるように心がけたい。

【大学教育の新たな展開】

近年のIT技術の普及，進展によりe-Learning Systemは，学習環境，学習支援において新たな段階に入ってきている。本学にも新しいシステムが導入されて，いろいろな取り組みが可能となってきた。この様なシステムを授業に活用し，充実したカリキュラムと充実した授業内容をより多く提供できるように努力していくことにより，大学の力量を高めていき，特色ある大学づくり，学生のニーズに応えられる大学が目指すことが求められている。

これまでの大学の教育における状況と，今あるいはこれから対応して行かなくてはならないことについて，多少まとめておく。

今までを振り返ってみると，講義の行う環境，方法は当然教員の裁量で工夫されてきた。そこでは，教える側にとっては学習内容の習得を学生の主体性のみに任せていたと言ってよいだろう。しかし，現在はこのようなスタイルでは大学の果たすべき役割が覚束なくなってきているのではないだろうか。すなわち，学生の受講意欲の向上・喚起，学習態度の育成，学習成果の向上を目指した講義，学習なども考えていくことが必要となってきている。

このような講義・授業を目指して教室や授業支援の環境の変遷を表にしてみた。

教室・授業ツール・システムの変遷

<table>
<tr><th>年代</th><th>講義
(板書)</th><th>学生記録</th><th colspan="4">教材・資料提示</th><th>コミュニケーション</th><th>IT技術</th><th>システム</th></tr>
<tr><td rowspan="6">↓</td><td rowspan="6">黒板
ホワイトボード＋ネットワーク
(例 memo)
書画カメラ</td><td rowspan="6">ノートプリント
液晶タブレットPC
(ONE NOTE)</td><td colspan="2">レジュメ
(プリント，資料)</td><td>実物
模型</td><td rowspan="3">ビデオテープ</td><td rowspan="2">対面
訪問</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">OHP
(スライド(画像))</td><td>シミュレーション</td><td>PC</td><td rowspan="2">コースウェアー</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>メール</td><td>インターネット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ハイパーテキスト
(HTML)</td><td rowspan="2">Power Point</td><td rowspan="2">CGI・アニメーション，バーチャルリアリティー</td><td rowspan="2">VOD</td><td rowspan="2">チャット
掲示板</td><td>双方向性
SCS</td><td rowspan="2">遠隔</td></tr>
<tr><td>テレビ会議</td><td>Gigabit
無線LAN
DVTS</td><td>CMS
LMS</td></tr>
</table>

表にあげたような環境が本学にも整えられてきた。学生に自ら学ぶ姿勢を身につけてもらい，専門性を高め，社会での生きる力を培っていけるような環境を形成していくことが求められる。このような取り組みは，今後予想される社会からの教育評価として，例えば工学系ではJABEEなどの対応が考えられてくる。

この様なハード的な環境と共に，ソフト的な対応では，

・興味関心をもたせる，自分で考えさせる　<――**支援が必要**

・多様な教育環境，授業環境・・・・**教員の負担－教育の質**

遠隔キャンパス，社会人院生・学生：夜間・遠隔，

質問：教員の所へ訪問する以外の方法の確保

・成績・評価，理解度のチェック：GPA，

この様なことへの対応として，e ラーニングシステムの本格的な活用は重要な位置づけとなっているといえよう。

【e-ラーニングの概要】

e ラーニングシステムの活用の概略をあげてみると，

①共同学習(コラボレーション)，協調学習

例：WebCT　・・など

②個別学習（遠隔教育）

例：CALL-System　・・など

に大別できよう。

①のタイプでは，掲示板（ＢＢＳ）、メール、チャットなどを利用してディスカッションや質疑応答，例えば観察結果などを貼り付けたりして作業を協同して作り上げるシステムなどのようなツールを使って，協同学習，協調学習(CSCL：Computer Supported Collaborative Learning)する。

・教室をネットワーク上に実現

・認証を受けて、ネットワークに参加

・教材による学習、討論、質疑応答

・ドリル形式の問題

・レポート提出

①と②の中間のやり方もある。

例：セルフラーニング型授業の実現

WebCT にコースコンテンツを載せる

全体に対する講義はしない（動機付けのみ）

教員は学生の学習活動を支援する役割

ミニ講義…教室の一隅に学生を集めてあるテーマについて短時間の講義を行う。

個別指導…学生は授業時間中に，WebCT コンテンツ＋教員・友人との議論

この様な WBT(Web based Training)環境で学習していく際に，

LMS(Learning Managements System)

CMS(Course Managemants System)

を組み込んで，学習成果を高めていく。この際に重要になってくるのが授業設計（Instructional Design）である。今後のメディア教育においてこの **Instructional Design** への対応を考えて行かなくてはならない。

【WebCT の概要】

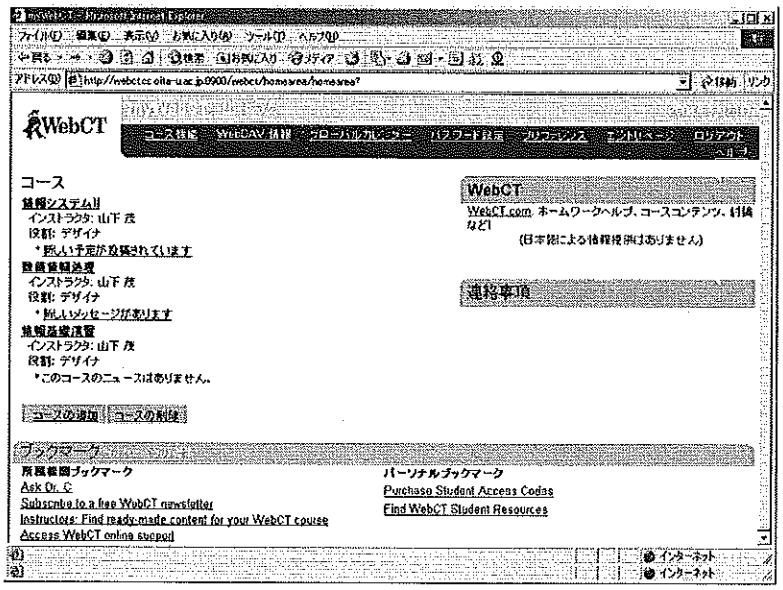
今回導入された WebCT の概要について報告する。利用するまでの手続きの概略と，何ができるかのアウトラインを記載しておく。

・ID とパスワードを総合情報処理センターに申請し、入手する。その際同時に，講義の科目（WebCT ではコースという）名と受講する学生の ID、パスワードも申請、登録しておく。

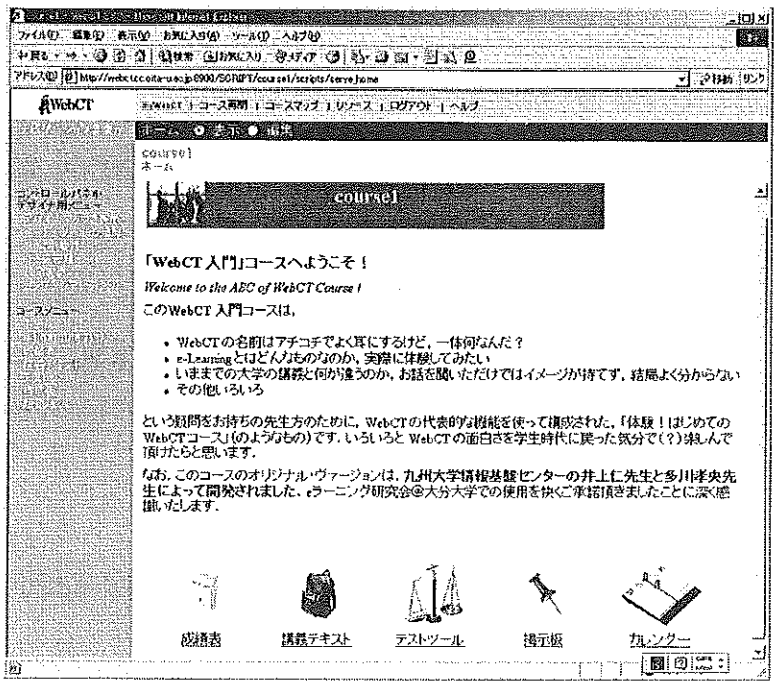
・WebCT は Web ベースのシステムなので，HTML で講義用教材、資料を作成しておく。Power Point も HTML 用または PDF に変換しておくと利用できる。自分で作成したホームページ（HP）があり，ここを閲覧して学習して欲しいときには，WebCT のなかで HP にリンクを張っておくとよい。WebCT のなかでの教材作成等については今後の講習会，マニュアルや HP をつくっておくようにしていく。

・ブラウザーで **http://webct.cc.oita-u.ac.jp:8900** の HP に接続。ID，パスワードでログインする。

・登録したコースを選択

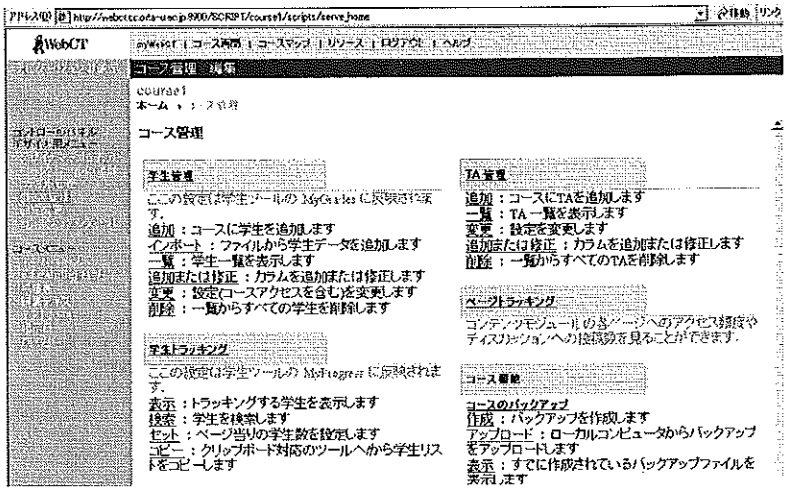


・講義日程のカレンダー，シラバス，講義資料，テスト，掲示板・メールなどのカテゴリーが用意されており，好みのカテゴリーを作成，利用すればよい。

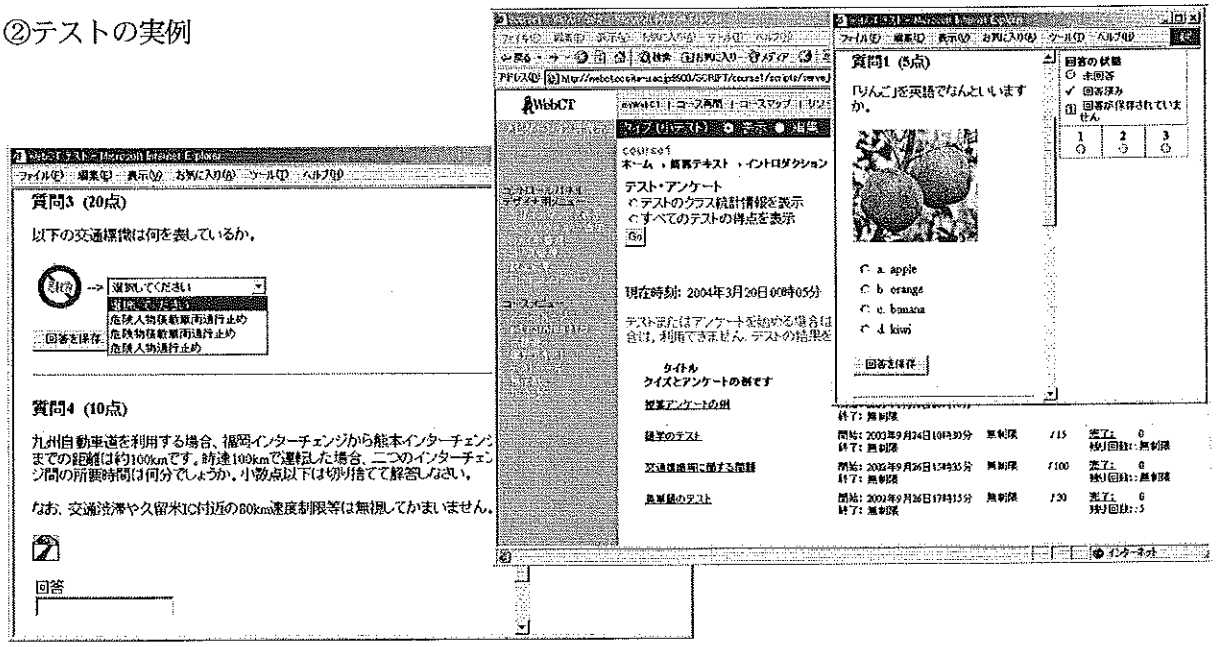


・よく利用されるテスト関連のシステムを抜粋して紹介する。

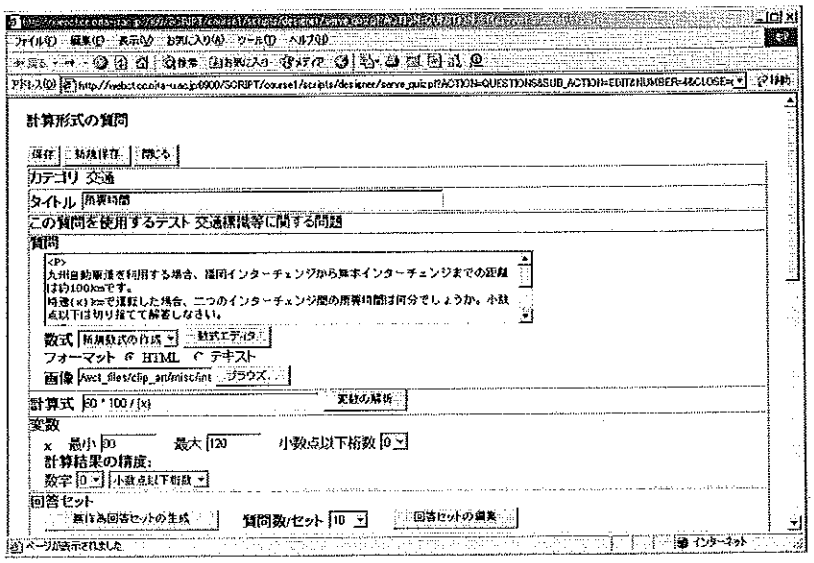
①コースを管理するツール群



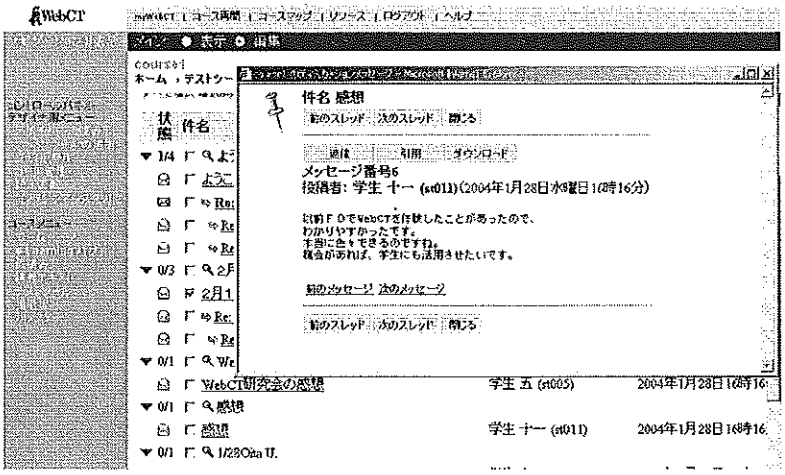
②テストの実例



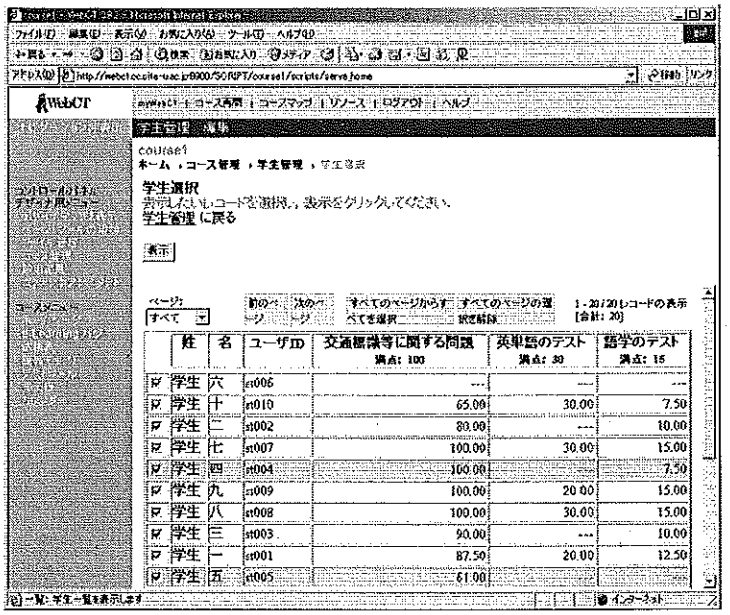
③テストの作成例



④掲示板での議論



⑤学生の成績



【FD講習会への取り組み】

今年度のＦＤでは，このWebCTを活用する講義（授業）の組み方を知ってもらうことを目標として実施した。

	内　　容	備　　考
第１回 11月４日	・e-ラーニングの現状 ・大分大学での現在の状況 　事例発表 　意見交換 ・学内システム概要 　事例紹介（WebCT） ・VOD作成実習	課題について討論 パワーポイントを持参されても

	授業をビデオ録画したコンテンツの作成	結構です。
第2回 11月11日	・WebCTを利用するための実習	Webで提示する教材（HTMLファイル）を利用した授業設計 HTMLファイルの使い方 学習確認テストの実施
第3回 11月18日	・授業設計の実習 各自で1つのコースを設計，製作 ・発表会	

ii．ＦＤ支援プロジェクト

ＦＤ支援プロジェクト

１．プロジェクト活動の目的

全教員が主体的にＦＤ活動に関与することをめざす。教務協議会が主催するＦＤ活動に全学部の教員が４年間に一度は参加できるよう，教務協議会のＦＤ活動を支援し，ＦＤワークショップの企画・立案および実施の支援を行う。

２．プロジェクト研究員

市原宏一（経済学部・責任者）
橋本美喜男（教育福祉科学部）
井上高教（工学部）

３．活動報告（経過及び成果）

全学的ＦＤ活動の一部は，一昨年より当ＦＤプロジェクトが企画を担当してきた。本年度は引き続き，教育技法の改善を中心課題として，企画を一つ増やし，５つの形態のワークショップを行った。

（１）．合宿研修ワークショップ

分科会での報告とそれを踏まえた，全体討議という様式で，２つの課題について合宿研修が取り組まれた。第一日目は，全体会として「心の問題に見る分大生の今」，「ＧＰＡの現状と課題」について検討が行われ，第二日目は「授業改善の取り組み」について，３分科会に分かれ，３人の報告者から専門を超えて，大学教育における課題や，教育技法の改善についての取り組みが報告され，それをもとに個々人の取り組みの紹介などの意見交換が行われた。

期日　2003年7月24日（木）13時～25日（金）14時
場所　翠山荘　　別府市南荘園町25組

第一日目（24日・木）
全体会Ⅰ「心の問題に見る分大生の今」（全体会会場）　14～16時
　報告者：藤田長太郎（保健管理センター），司会：麻生和江，記録：雲和子
全体会Ⅱ「ＧＰＡの現状と課題」（全体会会場）　16～18時
　報告者：井上正文，石川雄一（工学部），司会：森田泰次，記録：工藤修一

第二日目（25日・金）
分科会Ⅰ「授業改善の取り組み検討」　9～10時半

A班	◎山岸治男，西垣肇，雲和子，△片山准一，渋谷寿一，○的場　哲，佐藤輝被　，森口充瞭　，
B班	○安部テル子，工藤修一，◎森川登美江，中逵俊明，森田泰次　，厨川明，石川雄一，△田上公俊
C班	麻生和江，△谷口勇一，平塚良子，○鵜崎清貴，◎鈴木義弘，大久保利一，秋田昌憲，井上正文

◎報告者，○司会，△記録

全体会Ⅲ「授業改善の取り組み検討」（全体会会場）10時半～11時半

司会：中逵俊明，記録：秋田昌憲

総括・全体会（全体会会場）24日（金）11時半～12時

(2). ワークショップ「Ｅｘｃｅｌで学ぶ統計処理」：共催・生涯学習教育研究センター

難しい数学的理解よりも実践的にどのようにデータを処理し捉えるかに力点を置いて，代表的な表計算ソフトであるＥｘｃｅｌによる統計データの処理を中心に研修プログラムを構成した。内容は，基本的な統計手法やその考え方，データ編集や統計グラフの作成，変数間の関係を見つける回帰分析など，基本的な統計についての学習である。

期間　平成１５年１１月１７日（月）１８時００分～１９時３０分
　　１８日（火）１８時００分～１９時３０分
　　１９日（水）１８時００分～１９時３０分
場所　大分大学総合情報処理センター２階第３実習室
講師　深道　春男（コミュニティ総合研究センター長）

第１日（１１月１７日）　データの全体的な傾向を把握しよう
　表計算の基本的な使い方，統計グラフ，度数分布表の作成方法
第２日（１１月１８日）　データの特徴を計算しよう
　Ｅｘｃｅｌによる基本的な統計計算，データベースを使った計算
第３日（１１月１９日）　２つの変数の関係をばらそう
　クロス集計の方法，相関係数の計算，回帰分析

学部	参加者名
工学部	上宇都幸一，佐藤　静，今戸啓二，戸高　孝，岡内優明，中西義孝
教育福祉科学部	松本　正，栗栖由美子，田中通義，平田利文

経済学部	大崎美泉，金　珍奎，北山弘樹，松隈久昭， 豊島慎一郎
福祉社会科学研究科	平塚良子
留学生センター	坂井美恵子，中溝朋子
保健管理センター	藤田長太郎

(3). ＷＥＢを活用した教育・学習環境開発ワークショップ：共催・メディア教育プロジェクト

Ｗｅｂやインターネットを教育に活用するための教材と教授法の検討を目的として，実際にコミュニケーションツールを活用して，教材の作成やこれに応じた環境の検討を行った。下記のプログラムついて各２時間，３回に分けて実施した。

	内　　容
第１回	・e-ラーニングの現状 ・大分大学での現在の状況 ・学内システム概要 ・ＶＯＤ作成実習
第２回	・WebCTを利用するための実習
第３回	・授業設計の実習 ・発表会

場所　大分大学総合情報処理センター２階第３実習室

期日　　１１月　４日（火曜）　１８：００より
　　１１月１１日（火曜）　１８：００より
　　１１月１８日（火曜）　１８：００より

学部	参加者名
工学部	原　恭彦，西野浩明，二村祥一，行天啓二，大鶴　徹
教育福祉科学部	古賀精治，御手洗靖，長谷川考志，掘越紀香，家本宣幸
留学生センター	谷口秀治，金森由美，隈本順子，中溝朋子

(4). 教養教育・授業公開ワークショップ

教養教育における教授法・教材の工夫を進めるとともに，教養教育の課題と各授業と関連の検討も深めることを目的として，参加者全員相互の授業公開と参観を行った。授業の相互参観を通じて，各教員の授業を実際に経験するとともに，全体検討会ではそれぞれの取り組みを相互に紹介，検討した。

教養教育科目授業相互参観

氏　名	曜　限	講　義	教　室	参観者　※コメント担　当
浅野　努	16日・火5	化学演習	教養32号	※武内，井上，市原
前田　寛	18日・木3	身体・スポーツ科学（秋冬の野外活動）	教養12室	※牟田，※島田，浅野，武内
牟田征一	19日・金2	情報科学入門	工学部104号	前田，島田，※浅野市原
武内珠美		くらしの心理学Ⅱ	第1大講義室	※前田，島田，橋本市原
島田義生	19日・金3	身体スポーツ科学「生涯スポーツへの足がかり」	教養41号	※前田，牟田，橋本

公開授業担当者は，授業の課題（授業のねらいや目標），授業の流れ，公開当日分の内容や授業資料などの資料を用意した。公開授業担当者は自身の他に1つ以上の授業を参観した。

全体検討会　12月24日（水）9:00～12:00　教育福祉科学部第2会議室

（5）. 初年次のゼミナールにおける教育技法の改善ワークショップ

公募の中から採択されたテーマである。高校カリキュラム多様化等による学生の学習履歴に多様化に対応して，初年次のゼミナールおよび少人数教育（基礎演習，基礎ゼミナールなど）の教育技法・内容を検討することを目的とした。とりわけ，課題探求型能力の育成，リテラシー教育など専門教育との連携が必要とされる教育方法や内容についての改善を図る。参加者はグループに分かれ，各グループで検討した授業を個々に実践するか，あるいは合同授業を行う。さらに参加者相互のゼミナール参観を踏まえ，検討会を行った。

事前ガイダンス　5月28日（水）12:50～14:20（教育福祉科学部第3会議室）

初年次ゼミナール授業相互参観

担当者	授業名	日　時	参観者
天尾豊	応用化学入門	7月4日（金）1限	井上，大賀
下田憲雄	基礎演習	7月15日（火）5限	西村
中野昌宏	基礎演習	7月15日（火）5限	天尾，牛尾

本谷るり	基礎演習	7月18日（金）5限	下田
西村善博	基礎演習	7月22日（月）3限	下田，本谷
鳥井裕美子	基礎ゼミナール	7月28日（月）3･4限	中野，牛尾，稲用
大賀恭	応用化学入門	10月6日（月）5限	井上，天尾

検討会（2004年2月4日（水）14:30～16:00：教育福祉科学部第2会議室）

4．総括と今後のプロジェクト活動

本プロジェクトが支援するＦＤワークショップは，昨年以降，合宿研修ワークショップに新たな内容と形態のワークショップを３つ加えているが，本年度はさらに，全学に企画を募集した上で，新たに１つのワークショップを立ち上げた。これら４つの企画はいずれも，平日に学内で一定の期間をかけ実施している。これにより，通常の授業や教育内容を実際に研修に組み入れて検討を行うことができた。また，メディア機器等の学内施設設備を活用して，実際に用いる条件の下での研修も行っている。

昨年の報告においては，学生の履修プロフィール多様化や，メディア機器などの高度化に伴い，教育方法・内容を多面的に検討する必要性が高まっている状況に対して，そうした要請に応える一層の改善が継続的に図る必要を提起した。今年度新たに，初年次教育に的を絞ったワークショップを開催したことは，昨年来の複数の機会を継続したこととともに，昨年度提起された課題に一定の寄与ができたと考えられる。

また，昨年度の報告では，しばしばワークショップでの参加者が提供された課題を受動的に論議・修得することになり，必ずしも主体的であったとは言い難いという課題も提起したが，本年度の新しい企画は，公募企画という点でも，また，参加者全員が企画や運営さらに相互参観を行ったという上でも，従来の枠を乗り越えた取り組みといえよう。新たに企画された初年次ＦＤは，従来から個々の教員の発意により継続されていた取り組みが，全学的なＦＤ活動として，位置づけられたことになるのである。今後とも，こうした個々の教員の努力と創意が全学の教員相互に共有できるような取り組みの継続と拡大がなされるべきである。それによってこそ，先に述べたような多様な教育課題に応じた多面的な対応が可能になると考えられる。

iii．学生による授業評価プロジェクト

学生による授業評価プロジェクト

1．プロジェクト活動の目的

学生による授業評価の実施母体である教務協議会の活動を支援するために，全学統一した授業評価アンケートの立案・作成およびアンケート調査結果の集計・分析を行う。

学生による授業評価により，授業に対する学生の生の声を授業担当教官に知らせ，教官自身が授業評価の結果を真摯に受け止め，授業を反省することにより授業改善につながることが期待される。

2．プロジェクト研究員

黒川　勲（センター次長，責任者）
古城建一（教養協議会，前期），　酒井孝司（教養協議会，後期）
永田忠道（教育福祉科学部）
田中　眞（経済学部）
岡内優明（工学部）

3．活動報告（経過および成果）

（1）第１回プロジェクト会議　　５月２１日（水）１４時３０分～１５時３０分

第１回の会議において，本プロジェクトの活動方針の確認および授業評価アンケート調査項目の検討を行った。

次長からアンケートの経緯について説明を行い，方針について過去３年間の見直しの努力もあり，さらに大分医科大との統合後に見直しが予想されることから，15 年度については 14 年度実施のアンケート方式に基本的に変更を加えない，との提案を行い，了承された。

①　「学生による授業評価プロジェクト」の活動について

まず，本プロジェクトの活動について，経過や目的，業務および教務協議会との関連等について以下のように確認した。

大分大学における授業評価の試みは，平成９年度から各学部における取り組みから始まった。そして「学生による授業評価」の重要性が認識されたことにより，平成１２年度からは教務協議会を実施母体として全学的に実施されることとなった。平成１３年に大学教育開発支援センターが設置されるにともない，センターの重要なプロジェクトの１つとして「学生による授業評価プロジェクト」が立ち上げられ，授業評価の活動を支援することとなった。しかし本プロジェクト活動はあくまで教務協議会の活動を支援するものであり，実施母体は教務協議会である。

教務協議会との関連から，大学教育開発支援センターで行う「学生による授業評価」プロジェクト活動は以下のように考えられる。

ア，基本的事項

実施の趣旨・目的や対象授業科目，評価項目，集計・分析結果の取り扱い等の基本的事項の決定，および各学部教授会への依頼は教務協議会が行う。大学教育開発支援センター（本プロジェクト）では主に企画・立案と集計・分析業務を担当する。

イ，実施の趣旨・目的

実施の趣旨・目的は昨年度と同様である。

「学生による授業評価」の目的・目標は以下のとおりである。

『学部教育の質の向上を目的とし，①担当教員としての使命の自覚，②教授法の改善への直接的な資料の提供，③担当教員としての教授能力の開発，④学生の学習態度の反省と学習意欲の向上を目標とする。』

ウ，対象授業科目

評価の対象となる授業科目については，１つの授業科目がおよそ３年に１度，評価対象になることが教務協議会において決定されている。

エ，評価項目

評価項目は大学教育開発支援センター（本プロジェクト）において案を作成し，教務協議会において了承を得る。

オ，集計・分析業務

平成 13 年度以降のアンケートの集計・分析の業務については大学教育開発支援センター（本プロジェクト）で行う。

② 「学生による授業評価」アンケート調査項目の検討

「学生による授業評価」アンケート調査項目は，基本的に 14 年度実施のアンケート方式に変更を加えていない。若干の変更点は，工学部学科名称の変更・入学年の変更である。

③ 「学生による授業評価」アンケート集計データの検討

個人別集計データの返却の際に，その活用に資するため学部別平均点・分布図を一括して返却する。

これまで報告書に掲載された集計データの推移（年度別）を示すグラフ等を報告書に掲載するよう努力する。

≪平成 15 年度の「学生による授業評価」調査用紙≫

（表面）

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、大分大学における授業内容を一層充実させ、教材や授業法を開発するための資料として利用されるものです。感じたことを 4 段階評価で率直に回答して下さい。
このアンケートの結果が、あなたの成績の評価に影響を与えることはありません。

授業科目名

§　あなたの所属等について質問します。

問 1　どの学部・課程・学科に所属していますか。
- 教育福祉科学部：⑪学校教育　⑫情報社会文化　⑬人間福祉科学
- 経済学部：㉑経済　㉒経営システム　㉓地域システム　㉔未所属
- 工 学 部：㉛機械エネルギー(生産システム)　㉜電気電子　㉝知能情報システム　㉞応用化学　㉟建設　㊱福祉環境

問 2　入学年はいつですか。
① 2003年　② 2002年　③ 2001年　④ 2000年　⑤ 1999年以前

	そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない
§　あなたの授業への取り組みについて質問します。				
問 3　この授業ではシラバスが役に立った。	①	②	③	④
問 4　私はこの授業によく出席した。	①	②	③	④
問 5　私は受講態度（遅刻や私語等）に留意した。	①	②	③	④
問 6　私はこの授業に意欲的に取り組んだ。	①	②	③	④
§　この授業の内容や担当教員の授業方法について質問します。なお、問19は担当教員が設定する設問です。				
問 7　この授業の目標は明確であった。	①	②	③	④
問 8　この授業の内容は興味あるものであった。	①	②	③	④
問 9　この授業の内容は量的に適切であった。	①	②	③	④
問 10　この授業は全体としてわかりやすかった。	①	②	③	④
問 11　担当教員の話し方（速さ、明瞭さ等）は適切であった。	①	②	③	④
問 12　学生の反応（理解度や達成度）を見ながら進められていた。	①	②	③	④
問 13　学生の意見や質問を聞くように配慮されていた。	①	②	③	④
問 14　教科書、プリント等の教材は適切に使用されていた。	①	②	③	④
問 15　黒板（ＯＨＰ等を含む）の使い方、板書の文字は適切であった。	①	②	③	④
問 16　学生の私語や遅刻等に適切に対処していた。	①	②	③	④
問 17　授業時間（授業の開始と終了の時間）は適切に守られていた。	①	②	③	④
問 18　担当教員はこの授業に真剣に取り組んでいた。	①	②	③	④
問 19	①	②	③	④
問 20　総合的に判断してこの授業はよかった。	①	②	③	④

裏面にも回答欄があります。

（裏面）

来学期以降、この授業をより良いよいものにするために、あなたの意見を自由に述べてください。

①この授業で良いと思ったこと。

②この授業で改善して欲しいこと。

③その他、意見や感想を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

（2）平成 15 年度前期の「学生による授業評価」アンケート調査

平成 15 年度前期の「学生による授業評価」アンケート調査に関しての具体的な集計・分析方法については以下のとおりである。

ア，調査対象（平成 15 年度前期）

教養教育：身体・スポーツ科学

以下，学期ごとに　人文分野，社会，自然，語学，身体スポーツ

教育福祉科学部：Bグループ（授業担当者の名前　さ～の）

以下，学期ごとに　Cグループ，Aグループ

経済学部：各学科２番目の講座の科目

以下，学期ごとに　各学科の３番目，１番目の講座の科目

工学部：全科目

イ，集計方法

a.単純集計

教養教育，３学部ごとに全データの単純集計を行う

b.分野・科目別集計

教養教育，教育福祉科学部，経済学部：分類による集計はしない

工学部　：２つの分類別集計を行う（必修科目，選択科目）

c.クロス集計

i.総合評価項目（問 20）の肯定的評価（『そう思う』『どちらかというとそう思う』）と他の項目とのクロス集計を行う。

ii.総合評価項目（問 20）の肯定的評価をA群（90％以上），B群（80％以上 90％未満），C群（80％未満）に分類し，その分類ごとに他の項目とクロス集計したものを３次元グラフで表す。

iii.問２（入学年），問６（意欲），問 10（分かりやすさ）それぞれと，問 20 以外の項目とのクロス集計を行う

ウ，分析方法

a.傾向分析

全データの単純集計および各評価項目の平均値に基づいて傾向分析を行う。

b.比較分析

分類別集計に基づいて分類間の特徴の比較分析を行う。（工学部のみ）

c.相関分析

・ｉのクロス集計に基づいて肯定的評価および否定的評価と他の項目との相関を分析する

・ⅱの３次元グラフに基づいてA群，B群，C群，の特徴を比較分析する

・ⅲのクロス集計に基づいて問２（入学年），問６（意欲），問 10（分かりやすさ）それぞれと問 20 以外の項目との相関を分析する

（3）平成 15 年度後期の「学生による授業評価」アンケート調査（旦野原キャンパス）

平成 15 年度後期の「学生による授業評価」アンケート調査に関しての調査対象は以下のとおりである。具体的な集計・分析方法について変更はない。

ア，調査対象（平成 15 年度後期）

教養教育：人文分野

教育福祉科学部：Cグループ（授業担当者の名前　は～わ）

経済学部：各学科 3 番目の講座の科目

工学部：全科目

4．「学生による授業評価」の活用に関するワーキンググループ報告書への対応

開始後４年を経た「学生による授業評価」に関して，より一層授業改善に資する活用法についての議論と提案を担うため，平成 15 年 6 月 4 日開催の教務協議会において「学生による授業評価」の活用に関するワーキンググループが設置され，12 月 24 日開催の教務委員会（旧教務協議会）に報告書が提出された。

報告書では，「学生による授業評価」の現状と問題点が指摘され，活用のための提案が行われている。特に問題点として，①　報告書作成･公開までに時間がかかる②　報告書の内容の教員・学生に対する公表が不十分である③　授業評価・教員個人データが有効に活用されていない④　授業評価の評価時期が適当ではない，などが指摘されている。さらに，活用のための提案として，「アンケート調査結果の速報」，「教員による自己点検レポート」が挙げられている。

本センターは，教務委員会の審議結果に基づき，平成 15 年度後期「学生による授業評価」アンケート調査（旦野原キャンパス）より，「アンケート調査結果の速報」，「教員による自己点検レポート」の作成に取り組むこととなった。アンケート調査結果の速報は，平成 16 年 3 月 1 日に教員に配布するとともに，学生に対しては掲示板に掲載及び各学部の学科・講座単位で配布している。教員による自己点検レポートについては 3 月中に集約し，「自己点検レポート報告書（仮称）」として発行する予定である。

5．今後のプロジェクト活動

今後のプロジェクト活動の検討課題としては以下の点が挙げられる。

① 平成 15 年度のプロジェクトにおいて実施した「学生による授業評価」の内容・分析方法について検証するとともに，『学生による授業評価の活用に関するワーキンググループ報告書』において指摘される問題点について検討し改善を図る。

② 大分大学は，平成 15 年 10 月に大分医科大と統合することにより，４学部構成となっている。今年度本センターの「学生による授業評価プロジェクト」は旦野原キャンパスを対象として活動を行っている。今後は医学部を含めた全学的取り組みとしての「学生による授業評価のあり方」を検討する必要がある。

Ⅱ　広報委員会

センター広報委員会

1．広報委員会の目的

センターの事業・活動の広報を目的としてセンターニュース，センター報告書を発行する。

2．広報委員

黒川　勲（センター次長，責任者）
藤田　敦（５月まで）・古賀精治（教育福祉科学部）
中逵俊明（経済学部）
行天啓二（工学部）

3．活動報告（経過および成果）

(1) 第１回広報委員会会議　　5月29日（木）14時30分～15時30分

平成 15 年度の広報委員会における広報活動計画およびセンターニュース№.４の内容の検討を行った。

① 平成15年度の広報活動計画の検討

平成15年度の広報委員会では以下の３つの活動を行うことを承認した。

ア，創設３年目を迎える大学教育開発支援センターでは，センター次長，運営委員および各プロジェクト研究員が交代することから，平成15年度の本センターの紹介を図るための『センターニュース№.４』と，業務内容の周知を図るための，適宜『センターニュース』を発行する。

また，センターからの情報発信として，プロジェクト活動の予定・案内等をセンターホームページで提供する。

イ，新しい体制になった本センターの広報を図るために，センターのホームページを更新する。更新に際しての，技術的な問題については行天委員が担当する。

ウ，大学教育開発支援センターの各プロジェクトは単年度による活動であることから，各プロジェクト活動の報告および次年度への課題を内容とした平成15年度の『センター報告書』を年度末に作成する。

② センターニュース№.４の内容の検討

大学教育開発支援センターのセンターニュース№.３の原案に基づき，新センター次長の挨拶，センターの運営について，平成 15 年度プロジェクト活動について，平成 15 年度ＦＤワークショップについて等の各項目についての構成や内容について検討した。

黒川センター次長には挨拶文の原稿を依頼し，各プロジェクト活動責任者には原案におけるプロジェクト活動のねらいの確認と活動方針（計画）の加筆を依頼することとした。

（2）センターニュースの発行

センターニュースNo.4の発行　　9月1日

第1回広報委員会会議での決定事項に基づいて，大学教育開発支援センターを紹介するためのセンターニュースNo.4を発行した。

センターニュースNo.5の発行　　10月24日

ＦＤワークショップの開催：「Ｅｘｃｅｌで学ぶ統計処理」，「e-ラーニングシステムを活用した授業を考える」，「教養教育・授業公開ワークショップ」についてセンターニュースNo.5を発行した。

センターニュースNo.6の発行　　1月19日

教務委員会主催，センター・メディア教育プロジェクト企画の e-ラーニング研究会：「WebCTを教育基盤としたハイブリッド授業環境の構築とその効果」（安武公一講師）について，センターニュースNo.6を発行した。

（3）ホームページの更新

本年度の大学教育開発支援センターの運営体制および業務内容を広く学内・外に広報するために，センターニュースNo.2の内容を基本としてセンターホームページの内容を更新した。

7月1日	15年度の運営体制及び業務内容の紹介
10月28日	ＦＤワークショップの案内
1月19日	e-ラーニング研究会の案内
3月9日	授業評価の活用に関する「教員による自己点検レポート」について 16年度「教育技法改善ＦＤワークショップ」企画募集

（4）イントラネットへの掲載

本年度の大学教育開発支援センターの企画・案内を広く学内に広報するために，イントラネットへの掲載を行った。

1月27日	e-ラーニング研究会の案内
3月9日	16年度「教育技法改善ＦＤワークショップ」企画募集

（5）追手門学院大学の調査への対応　　9月4日

追手門学院大学より，本センターの業務内容について訪問調査の依頼があり，センター

長・次長外がセンターの組織・運営体制，活動概要，平成 15 年度の活動経過および今後の課題について説明し，質疑・情報交換を行った。

追手門学院大学からは，中村啓佑教育研究所長，井ノ口淳三人間学部教授が来校され，追手門学院大学教育研究所のニュース及び紀要の提供があった。

（6）教官と学生との意見交換会　平成 16 年 3 月 23 日

今年度で２回目となる「教官と学生との意見交換会」は教務委員会及び学生支援委員会が主催し，本センター広報委員会が企画・運営を支援するものである。

学生九団体と旦野原キャンパス３学部自治会に協力要請を行い，２回の打ち合わせで学生側からの質問･意見を集約し，教務委員会及び学生支援委員会に回答の準備を依頼した。

当日の意見交換会は教員と学生との協同によって進行し，活発な意見交換が行われた。

（7）センター報告書の作成　　平成 16 年 3 月

センターの概要，センター運営委員会の議事報告，各プロジェクトの活動報告，センター規則，センター運営委員会規程等を内容とした『平成 15 年度大分大学大学教育開発支援センター報告書』を作成する。平成 16 年 2 月に各プロジェクト活動責任者に活動報告の執筆を依頼した。センター報告書の発行は 3 月を予定している。

4　今後の広報活動

大学教育開発支援センターは開設されて３年目のセンターであるために，より広く，より深く本センターの業務内容を理解してもらえるよう広報活動を推進する必要がある。

本年度は，これまでよりもセンターニュースの発行及びホームページの更新回数は多かったが，これらの内容・回数については一層の充実を図る必要がある。

Ⅲ　資　　料

平成１５年度第１回大学教育開発支援センター運営委員会議事概要

日　時　　平成１５年４月２４日（木）１３：００～１３：４０
場　所　　教育福祉科学部第３会議室
出席者　　豊田センター長、黒川次長、藤田、橋本、中逵、市原、井上、各委員
列席者　　栗林課長、秋山課長補佐、後藤専門職員、横尾専門職員、山本補佐員

資料１　大学教育開発支援センター運営委員会委員名簿
　　２　公募型ＦＤワークショップ企画書（初年次ゼミナールにおける教育技法の改善）
　　３　平成１５年度教育研究改革・改善ＰＪ経費要求書（案）・ＦＤ研修会への派遣
　　４　平成１５年度教育研究改革・改善ＰＪ経費要求書（案）・ＦＤＷＳ開催及び授業評価
　　５　平成１５年度教育研究等経費要求書（案）・ＦＤＷＳ開催及び授業評価
　　６　平成１５年度教育研究等経費要求書（案）・大学教育開発支援センター運営費

議事に先立ち，交替した新任のセンター次長と教育福祉科学部選出の新任委員の紹介があった。

議　題１．平成１５年度プロジェクトについて
　議長から，教養教育協議会から依頼のあった「教養教育の見直し」については，教養教育協議会として議論し意見を集約することを，昨日の教養教育協議会で決定したことから，本年度は本センターのプロジェクトから外すことを説明した。
　続いて黒川次長から，昨年度の各プロジェクトの報告とともに，今年度に推進することが決定している，①ＦＤ支援プロジェクト，②メディア教育プロジェクト，③学生による授業評価プロジェクト，の３つの活動について説明した。

２．平成１５年度プロジェクト委員の選出について
　議長から，資料１の名簿について説明したうえ，学部等からの推薦等に基づき，以下のそれぞれの委員を決定した。（決定内容については，別紙名簿のとおり。）
　　①　広報委員，②メディア教育プロジェクト委員，③ＦＤ支援プロジェクト委員，
　　④　学生による授業評価プロジェクト委員

３．公募型ＦＤワークショップについて
　市原委員から、公募していたＦＤワークショップの企画について、資料２・企画書（初年次ゼミナールにおける教育技法の改善）の応募があったことの説明があり、これを本年度のＦＤワークショップの企画として追加することについて了承した。なお，本企画は５月の教務協議会への報告を経て実施することとした。

４．経費の要求について
　議長から，資料３～６により，以下の事項についての経費要求書を提示し，了承した。
　　①若手教員のＦＤ研修会への派遣
　　②ＦＤＷＳ開催及び授業評価による授業方法の開発・改善，
　　③大学教育開発支援センター運営費

５．その他　①藤田委員が６月から内地留学のため不在となり，後任の委員の選出を学部に依頼することとした。
　　②６月７，８日に大阪薬科大学で開催される大学教育学会に，橋本委員が出席することとした。
　　③議長から，（参考）「特色ある大学教育支援プログラム」について説明した。

平成１５年度第２回大学教育開発支援センター運営委員会議事概要

日　時　　平成１６年３月２３日（火）１６：００～１６：４０

場　所　　教養教育棟会議室

出席者　　豊田委員長、黒川次長、橋口、古賀、橋本、中遠、市原、小野、井上、行天各委員

資　料１　大学教育開発支援センター運営委員会委員名簿
　　２　大学教育開発支援センター運営委員会規程
　　３　教務委員会からの支援要請書（案）
　　４　平成１５年度プロジェクト概要報告書（案）

議　題１．平成１５年度プロジェクトについて

平成１５年度に実施したプロジェクトの概要について，黒川次長から資料４により報告があった。

２．平成１６年度プロジェクトについて

議長から，資料３の支援要請書は，明２４日に開催予定の教務委員会での了承が前提であることを説明し，支援することを了承した。

また，新たに学生の学習状況や生活状況の掌握のための意見交換の場として，「学生と教員との意見交換に関する支援」を加えることとした。

なお，「福祉教育の開発に関する支援」を実施するため，福祉教育開発支援プログラムを設置し，そのメンバーは豊田副学長，福祉科学研究センターから１名，生涯学習教育研究センターから１名，及び各学部から１名の計７名とすることを決定した。

大分大学大学教育開発支援センター規則

平成１５年１０月１日制定

（設置）

第１条　大分大学（以下「本学」という。）に学内共同教育研究施設として，大分大学大学教育開発支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは，本学の理念・目標に基づき，本学における教育活動の在り方を総合的に探求し，学内諸組織や学外関係機関と連携しながら，高度で個性的な教育の実現を支援することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。

（１）　学士課程教育及び大学院教育の在り方に関する調査・研究

（２）　高校教育と学士課程教育の接続に関する調査・研究

（３）　学士課程と大学院課程のカリキュラム接続に関する調査・研究

（４）　国際化，情報化に対応した教育に関する調査・研究

（５）　授業方法の改善に関する調査・研究

（６）　メディア教育に関する調査・研究

（７）　入学生の学力に関する調査・研究

（８）　教育業績評価に関する調査・研究

（９）　学士課程教育に係る他大学との連携・協力

（１０）　その他教育に関する調査・研究

２　センターは，前項各号の業務により得られた調査・研究結果を学内諸組織及び施設へ提供し，当該施設等を支援する。

（職員）

第４条　センターに次に掲げる職員を置く。

（１）　センター長

（２）　センター次長

（３）　研究員

（４）　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長は，センターの業務を掌理する。

２　センター長は，副学長（教育・学生担当）をもって充てる。

（センター次長）

第６条　センター次長は，センター長を補佐し，センター長に事故があるときはその職務を代行する。

２　センター次長は，本学の教官のうちから，第８条の委員会の推薦に基づき，学長が任命する。

３　センター次長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，センター次長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（研究員）

第７条　研究員は，センターに置かれるプロジェクトの調査及び研究等を行う。

２　研究員は，学長が任命する。

（管理委員会）
第８条　センターに関する管理運営の基本方針その他重要な事項を審議するため，大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。
２　管理委員会に関する必要な事項は，別に定める。

（運営委員会）
第９条　センターの円滑な運営を図るため，大分大学大学教育開発支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関する必要な事項は，別に定める。

（事務）
第１０条　センターに関する事務は，学生支援部教育支援課において処理する。

（雑則）
第１１条　この規則に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は別に定める。

附　則（平成１５年規則第１２号）
この規則は，平成１５年１０月１日から施行する。

大分大学大学教育開発支援センター運営委員会規程

平成１５年１０月１日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，大分大学大学教育開発支援センター規則第９条第２項の規定に基づき，大分大学大学教育開発支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し，必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　委員会は，大分大学大学教育開発支援センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため，次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）　センターの運営に関すること。

（２）　センターの業務に関すること。

（３）　その他センターに関する必要な事項

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）　センター長

（２）　センター次長

（３）　生涯学習教育研究センター専任教員のうちから１人

（４）　各学部から選出された教員　各２人

（５）　学生支援部長

２　前項第３号及び第４号の委員は，学長が任命する。

３　前項の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（会議）

第５条　委員会は，委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ意見を聴くことができる。

（事務）

第７条　委員会の事務は，学生支援部教育支援課において処理する。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則（平成１５年規程第１８号）

この規程は，平成１５年１０月１日から施行する。

大学教育開発支援センター運営委員名簿

センター長	豊田　寛三	(副学長（教育・学生担当))
センター次長	黒川　勲	(教育福祉科学部)
委員	橋口　泰宣	(生涯学習教育研究センター専任教官)
委員	橋本　美喜男	(教育福祉科学部)
委員	藤田　敦	(教育福祉科学部)
委員	古賀　精治	(教育福祉科学部)
委員	中逵　俊明	(経済学部)
委員	市原　宏一	(経済学部)
委員	井上　高教	(工学部)
委員	行天　啓二	(工学部)
委員	小野　克重	(医学部)
委員	藤原　作平	(医学部)

平成１５年度
大分大学大学教育開発支援センター報告書

発　行　　平成 16 年 3 月
編　集　　大分大学大学教育開発支援センター
〒870-1192　大分市大字旦野原 700 番地
Tel/Fax（097）554-6851
E-mail:support@cc.oita-u.ac.jp
http://www.support.susi.oita-u.ac.jp